

女子準決勝第2試合目は、昨年度優勝校の愛知学泉大学と昨年度ベスト16で敗れたリベンジを誓う大阪人間科学大学の注目の戦いとなった。終始接戦となったこの試合、一時リードを奪われながらも、インサイドから流れを作った大人科が追いつがる学泉大の反撃を振り切り75-66で勝利を手にした。

第1ピリオド、大人科が#4近藤#9大濱のシュートで先制点を挙げる。学泉大も#12神山のシュートなどで得点を返すが、大人科は#4近藤#8藤木が3Pシュートを決め立ち上がりの良さを見せつける。序盤は押され気味の学泉大だったがインサイドから粘り強くチャンスを作ると点差は一気に縮まり大人科の背後につける。終了間際、#9大濱が得点し22-16大人科リードで第1ピリオドを終える。

第2ピリオド、両チーム堅い守りから得点が止まり均衡状態となる。流れを変えたのは学泉大、#19内堀の3Pシュートや#5鈴木のシュート更には#14八木の3Pシュートで逆転に成功する。大人科も#17畠中がインサイドで踏ん張りセカンドチャンスをものにする。そこからは互いに一步も譲らず高確率で3Pシュートを沈め38-38の同点で前半を終えた。

第3ピリオド、前半と同様に大人科が良い出だしを見せる。#9大濱#17畠中がインサイドからリズムを作ると、アウトサイドの#4近藤が外角からリングを射抜き学泉大からリードを奪う。対する学泉大は激しいディフェンスで大人科を苦しめ、傾きかけた流れを引き戻す。すると学泉大#14八木が逆転の3Pシュートを決める。さらに#17高木が落ち着いてフリースローを決めリードを6点に。タイムアウトで落ち着きを取り戻した大人科は#19白鞘らの連続5得点で56-55と差を詰め第4ピリオドに勝負の行方は持ち越された。

第4ピリオド、開始早々に大人科#17畠中が技ありのバックシュートで逆転に成功する。その後も#19白鞘のシュートなどで差を5点とする。ここを勝負と見た学泉大ベンチはすかさずタイムアウトを取る巧みなベンチワークで立て直しを図るも、直後に大人科#17畠中に速攻からバスケットカウントを決められ苦しい状況が続く。学泉大は#5鈴木が個人技などでスコアを返すが3点差の壁を破れない。残り1分20秒、学泉大は最後のタイムアウトを使い逆転の望みにかけるが、確実にフリースローを決めた大人科が75-66で決勝進出を決めた。

記入者：木田 三平